

論文の和文要旨

氏名 久保 慶東

(博士論文の題目)

スポーツ活動中に発生する大腿部肉離れの疫学的・神経生理学的研究

(博士論文の要旨)

第1部 総合序論

本博士論文は大腿部肉離れについて、疫学と神経生理学のそれぞれから検討をした。

肉離れの疫学を把握することは、危険因子を検討するために重要である。また、肉離れは筋実質の損傷だけではなく、支配神経も損傷する可能性があるという報告が散見されるなど、神経機能についても着目され始めている。そのため、本博士論文は、大腿部肉離れをマクロ的視点として疫学調査を行い、さらにミクロ的視点として神経生理学から検討することで、大腿部肉離れにおける危険因子の検討や新たなリハビリテーションの知見を得るための基礎研究とすることを目的とした。

第2部 スポーツ競技における大腿部肉離れの疫学調査

第1章 序論

スポーツ競技において、肉離れは選手に競技の中断を余儀なくさせるため、パフォーマンスの低下に繋がる。そのため、肉離れは予防すべき損傷の一つである。特に大腿部の肉離れが多いことが報告されている。肉離れについての疫学調査では、陸上競技やサッカー、ラグビー、レスリング、体操といった様々な競技に発生することが報告されている。また、多くの競技で外傷・障害についての報告は散見される。しかし、セパタクローは肉離れが発生すると報告されているにも関わらず、外傷・障害についての報告は見当たらず、大腿部肉離れの発生割合は明らかにされていない。そのため、第2部は、大腿部肉離れの疫学調査の一つとして、セパタクローにおける大腿部肉離れの発生割合を明らかにすることを目的とした。

第2章 大学セパタクロー選手における大腿部肉離れ発生とその要因

大学セパタクロー選手77名を対象として、外傷・障害の既往についてアンケート調査および聞き取り調査を行い、大腿部肉離れの発生割合を明らかにすることを目的とした。結果として、大腿部後面であるハムストリングスの肉離れが最も多く発生していた。ま